

---

# 青春に乾杯！

ブラームス・ヴェルディ・シュトラウス・ベートーヴェン

2005年度基礎ゼミ・レクチャーコンサート・オーケストラ・オペラ参考資料展

新入生基礎ゼミ・レクチャーコンサート・オーケストラ・オペラ編では、「青春に乾杯！」と題して4人の作品、ブラームス《大学祝典序曲》、ヴェルディ《椿姫》乾杯の歌、シュトラウス《こうもり》二幕フィナーレ、ベートーヴェン《交響曲第7番》を取り上げます。

図書館では演奏曲の楽譜、CD、映像資料とともに、関係図書の中から若い頃の肖像、自筆譜などを選んで展示します。音楽室で見なれた顔と違う作曲家の肖像をごらんください。あわせて、エピソードを交えて紹介します。

---

## contents

ブラームス	2
ヴェルディ	5
シュトラウス	8
ベートーヴェン	11

---

企画：樋口 眞規子

# Johannes Brahms

ヨハネス・ブラームス

1833年5月7日ハンブルク生～1897年4月3日ウィーン没

ドイツの作曲家

## 楽曲解説

《大学祝典序曲》Akademische Festouvertüre : op. 80

作曲年:1880年

初演:1881年1月4日、ブレスラウ、ブラームス自身の指揮による

初版:ベルリン ジムロック社 1881年

1879年3月11日、ブレスラウ\*大学から名誉博士の称号を送られたブラームスは、称号を受けるにあたり、古くからの友人でブレスラウの管弦楽協会の指揮者であるベルンハルト・ショルツ(1835-1916)に謝意をどう表したものと相談した。ショルツの提案を受け、翌1880年の夏、大学へのお礼と喜びの感情を込めて作曲されたのがこの《大学祝典序曲》。ブラームスが若いときに好んだという《ラコッツィ行進曲》からヒントを得たとされる冒頭部に始まり、4つの学生歌《われらは立派な校舎を建てた》"Wir hatten gebauet ein stattliches Haus"、《国の親父》"Landesvater"、《新入生の歌(狐の歌)》"Das Fuchslied"、《喜びの歌》"Gaudeamus"をポプリ風に用いた快活な楽曲で、ブラームス自身、(いくぶん軽んじて)「スッペ風の序曲」「スッペ風の接続曲」と呼んでいる。初演は、1880年12月6日にベルリンのホッホシューレで行われた試演を経て、1881年1月4日、ブレスラウのコンツェルトハウスでの管弦楽協会第6回予約演奏会でブラームス自身の指揮により行われた。

\*ブレスラウ:現ポーランドのヴロツワフ

『ブラームス』(作曲家別名曲解説ライブラリー7)p.97-102<請求記号 C57-980>

『管弦楽曲』(最新名曲解説全集5)p.98-102<請求記号 C31-277>

## 肖像画

### 1853年秋 20才の肖像

ブラームスが、デュッセルドルフのローベルト・シューマン家を初めて訪問した折に、シューマンがJ.J.B.ローレンスに描かせた鉛筆によるスケッチ。ブラームスの才能に感銘を受けたR.シューマンは『新音楽時報』"Neue Zeitschrift für Musik"(10月28日付)に「新しい道」"Neue Bahnen"と題するエッセイを発表し、若き才能を世に知らしめた。



「われわれには、ヨハネスが黙りがちなのが不思議に思われた。彼はほとんど口をきかないし、きいてもききとれないほど低い声である。彼には彼だけの秘密の世界があるのかもしれない。彼はすべての美しいものに熱中して、心のなかだけでそのものと生きている」

C.シューマンの日記より 原田光子『クララ・シューマン:真実なる女性』p.179(ダヴィッド社、1970)  
<請求記号 C60-466>

## 1884年頃 50才をすぎた頃の肖像

フランクフルトにて。大学祝典序曲を完成させたのは、これより4年程前の1880年、47才のとき。

Michael Musgrave: A Brahms reader. New Haven, CT : Yale University Press, c2000 <請求記号 J90-643>



### 展示資料

#### ブラームス旧全集

#### 第3巻 オーケストラのための序曲と変奏曲

ヴィースバーデン プライツコップ・ウント・ヘルテル社 [1926] <請求記号 A0-372>

#### 初版スコアのタイトル・ページ

ベルリン ジムロック社 1881

Kurt Hofmann: Die Erstdrucke der Werke von Johannes Brahms. Tutzing : H. Schneider, 1975 <請求記号 A25-657>

### 学生歌

Allgemeines deutsches Kommersbuch

フリードリッヒ・ジルヒャー/フリードリッヒ・エルク編 バーデン シャウエンブルク社 1925

<請求記号 F3-829>

「今日我々が入手することのできる「学生歌集」の多くには、ハード・カバーの表紙の四隅に裏表合わせて八つ、Biernagel と呼ばれる、ビール樽を作る際に使われた止め鉾が打ち込められている。...(中略)...このBiernagelのおかげで歌集が7mmほど宴会机から浮き上がって置かれることとなり、ビールが机の上にこぼれた場合液体はこの隙間を通り抜け、歌集本は「ビールの洗礼」を受けずにすむようになっている」

R.ラング、長友雅美「ドイツ学生歌の世界:その言語文化史的断面」シンフォニア、1999 p. 48 <請求記号 C64-144>

#### 作中に用いられた学生歌

《我らは立派な校舎を建てた》“Wir hatten gebauet ein stattliches Haus”

1819年のイエーナ大学の学生組合の解散のときにアウグスト・フォン・ピンツァーがテュービンゲン地方の民謡に歌詞をつけたもの。

《ランデスファーター（御国の父）》“Landesvater”

（ランデスファーター）とは、歌唱とともに剣に帽子を突き刺して国家と学生組合に忠誠を誓う儀式を指す。歌詞は1782年にA.ニーマンによって書かれた。旋律は、3部分からなり、導入部はヘッセン地方の民謡で18世紀の伝承歌と言われる。

《狐の歌（新入生の歌）》“Das Fuchslied”

デンマークの詩人L.ホルベルク(1684-1754)の書いた喜劇「あの山のジェッペあるいは人が変わった農夫」の中で歌われた歌の歌詞からの翻案、1808年にE.T.H.メルツァーによって書かれた草稿にみられる詩などを元に、(農夫が森へ行った)“Es ging ein Bauer ins Holz”などの民謡に歌詞付けしたとも言われている。また、冒頭部は「新入生(狐)の騎行」の情景描写で、大学で勉強を希望する若者が馬で目的の学徒へ到着する様を描いている。

## 《ガウデアムス（楽しく歌え）》“Gaudeamus”

1717年に、詩人 G.Ch.ギュンター(1695-1723)がラテン語から“（兄弟たちよ愉快地アレ) Bruder lasst uns lustig sein”と題してドイツ語に焼くし、さらに1781年、C.W.キントレーベン(1748-1785)の編纂した最初の本格的な『学生歌集』“Studentenlieder”に掲載されたものが、現在まで歌い継がれる形となった。

### 関連作品

## 《悲劇的序曲》

Tragische Ouverture : op. 81

作曲年:1880年

初演:1880年12月26日、ウィーン

初版:ベルリン ジムロック社 1881年

(大学祝典序曲)とともに、1880年の夏に避暑地バート・イシュルで作曲された序曲。ブラームスは、友人フリッツ・ジムロック宛の手紙(9月6日)に「非常に楽しい(大学祝典序曲)のあとで、(悲劇的序曲)も書かすにはいられなかった」と書いている。初演は、(大学祝典序曲)とともに行われたベルリンのホッホシュレでの試演(1880年12月6日)を経て、その年の1880年12月26日、ウィーンのムジークフェライン大ホールでハンス・リヒターの指揮で行われた。

ベルリン ジムロック社 [19--] <請求記号 E9-884>

ライプツヒ VEB プライコプフ・ウント・ヘルテル社 1976

<請求記号 E12-512>

ヴァイスバーデン プライコプフ・ウント・ヘルテル社 1997

<請求記号 E13-592>



### その他

#### ブレスラウ大学

絵葉書に描かれたブレスラウ大学。第一次世界大戦以前の情景。

#### 自筆譜のファクシミリ

## 《ドイツ・レクイエム》作品45(1857-1868)

第5曲「汝らは今、悲しみの中に」の冒頭部分 ウィーン楽友協会蔵

(ドイツ・レクイエム)は、ルター訳の新旧聖書によるドイツ語の歌詞を用いた演奏会用レクイエム。1856年のR.シューマンの死に対する冥福の祈りが、この曲の成立動機の一つといわれている。約10年をかけて作曲された後、1867年12月1日に最初の3曲を初演、全7曲の初演は、1869年2月18日ライプツヒのゲヴァントハウスでC.ライネッケの指揮によって行われた。

「ブラームス」(作曲家別名曲解説ライブラリー7)p.376-387

Siegfried Kross : Johannes Brahms Band . Bonn Bouvier 1977 <請求記号 J86-853>

### 参考資料

「ブラームス」(作曲家別名曲解説ライブラリー7)音楽之友社、1993 <請求記号 C57-980>

「管弦楽曲」(最新名曲解説全集5)音楽之友社 1980 <請求記号 C31-277>

R.ラング、長友雅美「ドイツ学生歌の世界:その言語文化史的断面」シンフォニア、1999 <請求記号 C64-144>

# Giuseppe Verdi

ジュゼッペ・ヴェルディ

1813年10月9日レ・ロンコレ・ディ・ブッセート生～1901年1月27日ミラノ没

イタリアの作曲家

## 楽曲解説

《椿姫》 La traviata

乾杯の歌 Libiamo ne lieti calici

作曲年:1853年

初演:1853年3月6日、ヴェネチア、フェニーチェ歌劇場

台本:フランチェスコ・ピアヴェ

原作:アレクサンドル・デュマ・フィス

アレクサンドル・デュマ・フィスの実体験を基にした小説『椿姫』(1848)を脚色した同名の戯曲(1852)を原作とする3幕のオペラ。マリー・デュプレシ(1824-1847)という実在の女性がモデルとなっている。ヴェルディは、このオペラを(1850年代当時の)現代を扱った物語として計画し、題名も"La traviata" (道を踏みはずした女)とあえて改題している。フェニーチェ歌劇場での初演は、歌手達の歌唱が不評をかうなどいくつかの理由で失敗に終わったが、手直しの後1854年5月6日ヴェネツィアのサン・ベネデット座での再演は大成功を収めた。

「乾杯の歌」は、第一幕、主人公ヴィオレッタの邸で開かれた宴会で、ヴィオレッタとその恋人となるアルフレード、および合唱で華やかに歌われる。

『歌劇』(最新名曲解説全集19)p.192-202<請求記号 C30-458>

『椿姫』(名作オペラボックス2)<請求記号 C44-004>

## 肖像画

おそらく1836年 23才の肖像

ステファノー・バレッツィ画 木炭、パステル 16×21.5 cm. ブッセート市所蔵。最初の妻マルゲリータ・バレッツィとの結婚当時の肖像と思われる。描いたのはマルゲリータのおじステファノー。



1832年に発行されたパスポートに記述されたヴェルディの容貌:「身長高く、豊かな栗色の髪、広い額、灰色の眼、黒い眉毛、小さな口、黒っぽい髭、細長い顎、痩せた顔つき、蒼白な顔色」  
アルド・オーベルドルフェル編著『ヴェルディ:書簡による自伝』p.18 カワイ出版, 2001  
<請求記号 C65-641>

Giuseppe Verdi. Colorno: Edizioni "Una città costruisce una mostra" 1985<請求記号 C19-636>

1853年 40才の肖像

パルマ国立ヴェルディ研究所所蔵 オペラ《椿姫》の初演は、この年の3月6日(ベネツィア、フェニーチェ歌劇場)

Verdi nelle immagini. [Milano]: Garzanti, [1941]<請求記号 C40-706>



## 初演劇場

ヴェネツィア フェニーチェ歌劇場(1792年開設) Museo Teatrale alla Scala 所蔵  
ゴンドラに乗って劇場に到着する観客たち。2度の火災の被害にあいながら不死鳥(フェニーチェ)の如く甦える歴史を持つ。1996年1月29日、わずかに外壁を残すばかりの大火災の後、2003年12月14日、8年ぶりに再建されたのは記憶に新しい。

William Weaver: Verdi. [London] Thames & Hudson, [1977?] <請求記号 C27-034>

## 場面写真(絵葉書?)

第1幕第1場 「乾杯の歌」ヴィオレッタの家での宴

第2幕第6場 「私を愛してね、アルフレード、私が貴方を愛しているくらい…」ヴィオレッタ、アルフレードのもとから走り去る

第2幕第1場 「アルフレード、この手紙が貴方のお手元に着くときには…」ヴィオレッタからの別れの手紙を読むアルフレード

第3幕終景 「おお、なんという悲しみだ！」アルフレードやジェルモンらに見守られながら息を引き取るヴィオレッタ

Giuseppe Verdi. Colorno : Edizioni "Una città costruisce una mostra", 1985  
<請求記号 C19-636>

## 初演ポスター

初演時の劇場ポスター ヴェネツィア フェニーチェ歌劇場(1853年3月6日)

William Weaver: Verdi. [London] Thames & Hudson, [1977?] <請求記号 C27-034>

## モデル肖像画

椿姫のモデル マリー・デュプレシ Marie Duplessis (1824-1847)

美貌と魅力で多くの男性をひきつけたパリの高級娼婦。一時期親密な関係にあったアレクサンドル・デュマ・フィスの書いた小説「椿を持つ女」、およびそれを脚色した戯曲「椿姫」のモデル。肺結核のため、わずか23才の若さで亡くなった。その墓は、今も、パリのペール・ラシェーズ墓地にある。

「彼女は漆黒の髪とバラのような輝かしい肌を持ったすんなりと背の高い人だった。こじんまりとした顔にエナメルのように輝く瞳は日本人のように切れ長だったが、いきいきと生気にあふれていた。唇はさくらんぼを思わせ、歯はこの世のものとも思えないほど美しかった。彼女の姿はマイセン焼きの陶器の像を思わせた。」(デュマが1867年出版された戯曲全集に書いた序文より)

アッティラ・チャンバイ、ディートマル・ホラント編 「椿姫 / ヴェルディ」  
(名作オペラボックス ; 2) 音楽之友社, 1987  
<請求記号 C44-004>



## 展示資料

ヴェルディ全集

(乾杯の歌)の冒頭部分

シリーズ1 オペラ 第19巻 (La Traviata)

シカゴ シカゴ大学出版 1997 <請求記号 A11-074>

自筆譜ファクシミリ

(乾杯の歌)の構想が書かれたスケッチ

(La Traviata)

Parma : Ministero per i beni e le attività culturali, Comitato nazionale per le celebrazioni  
Verdiana, c2000 <請求記号 H39-805f>

このスケッチが書かれた年代はまだ確定していないが、ピアール・ヴェガがリブレットの作成に  
取り掛かる前(おそらく)1852年11月と思われる。

原作

アレクサンドル・デュマ・フィス『椿姫』

吉村正一郎訳 / 岩波文庫 1935 <請求記号 J10-896>

新庄嘉章訳 / 新潮文庫 1950 <請求記号 J99-685>

朝比奈弘治訳 / 新書館 1998 <請求記号 J99-683>

リブレット(台本)

海老澤敏訳 / 音楽之友社 1966 <請求記号 X0-397>

坂本鉄男訳 / 音楽之友社 2004 <請求記号 X0-925>

解説

アッティラ・チャンパイ、ディートマル・ホルンド編『椿姫』(名作オペラボックス2)音楽之友社 1987  
<請求記号 C44-004>

漫画

里中真智子『椿姫』(漫画名作オペラ3)中央公論新社 2004 <請求記号 J101-304>

帆効雅宏『椿姫』(まんがオペラ・シリーズ5)音楽之友社 1984 <請求記号 C63-573>

公演プログラム

新国立劇場:2002年9月5-15日 新国立劇場運営財団 2002 <請求記号 J97-383>

新国立劇場:2004年11月22日-12月4日 新国立劇場運営財団 2004 <請求記号 J103-812>

関連文献

アウラ・マーニャ訳『椿姫』(イタリアオペラ歌曲徹底解剖専門誌1)アウラ・マーニャ 1985  
<請求記号 C9-645>

永竹由幸『椿姫とは誰か オペラでたどる高級娼婦の文化史』(丸善ボックス)丸善 2001  
<請求記号 C65-554>

参考資料

William Weaver: Verdi : a documentary study. [London] Thames & Hudson, [1977?] <請求記号  
C27-034>

アルド・オーベルドルフェル編著『ヴェルディ : 書簡による自伝』カワイ出版, 2001 <請求記号 C65-641>

## Johann Strauss

ヨハン・シュトラウス

1825年10月25日ウィーン生~1899年6月3日ウィーン没

オーストリアの作曲家

### 楽曲解説

#### 《こうもり》 Die Fledermaus

作曲年 1874年

台本 カール・ハフナー、リヒャルト・ジュネー

初演 1874年4月5日、ウィーン、アン・デア・ウィーン劇場

台本 フランチェスコ・ピアーヴェ

原作 アンリ・メイヤック、リュドヴィク・アレヴィ(ロデリヒ・ベンディックスの喜劇「牢獄」(1851)に基づく)

(インディゴと盗賊達)(1871)、(ローマの謝肉祭)(1873)に続くヨハン・シュトラウス二世のオペレッタ第3作。美しいワルツやポルカにのって、大晦日の舞踏会を舞台に享樂的で風刺の利いた物語が繰り広げられる。内容が大晦日の晩の話であることからドイツ語圏では年末恒例の出し物となっている。また、ヨーロッパのカトリック圏では、12月31日はサン・シルベストロの祝日。真夜中の零時の鐘が鳴ると同時にシャンパンを開け大騒ぎになる風習がある。

第2幕フィナーレの場面は、オルロフスキー公爵の舞踏会に集う人々によって華やかに繰り広げられる。バレエ場面では、シュトラウスの他の作品を置き換えて演奏することも多く、よく知られるのは(電光と雷鳴)(作品324)。

『歌劇』(最新名曲解説全集19)p.22-31<請求記号 C30-458>

『オペレッタ名作百科』永竹由幸著 p.48-51<請求記号 X-081/O>

### 肖像画

#### 1843年 18才の肖像

J.Diezによる鉛筆画

父シュトラウスは、息子が音楽家になるのは反対であったが、1844年10月、シュトラウス二世はウィーン郊外のカジノ・ドームマイヤーでデビュー、たちまち父を凌ぐ人気を博するようになる。

ヨハン・シュトラウスといえば豊かなひげをたくわえた肖像画でお馴染みであるが、最初の肖像画であるこの絵には、ひげのない初々しい姿が描かれている。



#### 1874年 49才の肖像

(こうもり)初演時の頃の類ひげをたくわえたJ.シュトラウス。

1873年から1874年の年末年始にかけての6週間で(こうもり)を完成させたシュトラウスは、4月5日のアン・デア・ウィーン劇場での初演を見届けると、イタリアへの演奏旅行へ旅立った。

Wilhelm Sinkovicz, Herwig Knaus.: Johann Strauss Wien: Holzhausen, 1999  
<請求記号 J90-000>





自筆譜ファクシミリ

第 2 幕フィナーレの終結部

ヨハン・シュトラウス新全集 シリーズ 1.2 第 3 巻 (こうもり) 口絵

ウィーン シュトラウス・エディション <請求記号 A11-490>

初演ポスター

初演時の劇場ポスター

1874 年 4 月 5 日 アン・デア・ウィーン劇場

Marcel Prawy : Johann Strauss. Wien : Ueberreuter, c1991 <請求記号 C55-974>

初演劇場

アン・デア・ウィーン劇場 (1888 年)。

左側に見える建物がアン・デア・ウィーン劇場 (1801 年開設)。右手に見える橋はシカネーダー橋。「こうもり」をはじめシュトラウスのオペレッタはこの劇場で初演された。

Oswald Panagl, Fritz Schweiger: Die Fledermaus. Wien : Bohlau, c1999 <請求記号 J97-268>

初演の出演者

1. オルロフスキー公爵に扮するイルマ・ニッティンガー
2. 典獄長フランクに扮するカール・アドルフ・フリーゼ(左)とフロッシュに扮するアルフレード・シュライバー(右)

Marcel Prawy : Johann Strauss . Wien : Ueberreuter, c1991 <請求記号 C55-974>

展示資料

ヨハン・シュトラウス全集

ヨハン・シュトラウス新全集 シリーズ 1.2 第 3 巻 (こうもり) オペレッタ全 3 幕

ウィーン シュトラウス・エディション <請求記号 A11-490>

《こうもり》のモチーフから生み出された 6 曲の舞踏曲 (そのうち 5 曲)

《こうもりポルカ》 Fledermaus-Polka <請求記号 H40-996>

フランス風ポルカ 作品 362 1873 年

オペレッタに先立つ 1874 年 2 月 10 日に披露された。オペレッタへの期待を繋ぐべく(こうもり)の様々な部分が用いられている。

《こうもりカドリユ》 Fledermaus-Quadrille <請求記号 H37-618>

作品 363 1874 年

オルロフスキー公爵のクブレ「喜んで人を招待しよう」を始めとして、オペレッタ中の旋律がふんだんに用いられている。

《チク・タク》 Tik-tak <請求記号 H22-367>

急速ポルカ 作品 365 1874 年

第 2 幕のロザリンデとアイゼンシュタインの「時計の二重唱」から主要モチーフはとられているが、その他にも様々な旋律が巧みにちりばめられている。

《仲良しワルツ》 Du und Du <請求記号 H39-875>

作品 367 1874 年

第2幕フィナーレで宴に集う人々の歌う「何とすばらしい宴」から始まるワルツ。このワルツの性格は、登場人物の1人ファルケ博士の述べる「さあ、みなさん、お互いに親しく呼び合おう」に表わされている。

《忘れられる人は幸せ！》 Glücklich ist, wer vergisst! <請求記号 H37-330>

ポルカ・マズルカ 作品 368

第1幕のフィナーレをモチーフとして始まるこの曲は、おそらく(こうもり)のために書かれたと思われるけれど使われることのなかったメロディーによって幕を閉じる。

#### 関連楽譜

《電光と雷鳴》 Unter Donner und Blitz

ポルカ 作品 324 1868 年 <請求記号 H38-252>

芸術家協会「ヘルペルス(宵の明星)」の舞踏会のために作曲された。オペレッタ(こうもり)の第2幕フィナーレでよく演奏されることで馴染みのポルカ。

展示資料は、金管五重奏に編曲された楽譜。

参考 「ヨハン・シュトラウス 管弦楽曲完全全集」曲目解説 (Marco Polo, 1999) <請求記号 XD42089>

#### 原作

Le réveillon

(Theatre / Henri Meilhac & Ludovic Halévy (Paris : Calmann-Levy, 1955)所収

<請求記号 J52-993>

ロデリヒ・ベンディックスの喜劇『牢獄』(1851)に基づいて、アンリ・メイヤックとリュドヴィク・アレヴィが 1872 年に改作。"Réveillon"とはクリスマス・イヴの仮装舞踏会、または大晦日の晩餐会を意味する。

#### リブレット(台本)

ドイツ語版 シュツットガルト レクラム 1965 <請求記号 X0-542>

英語版 ジョン・モーティマー訳 ロンドン ヴァイキング 1989 <請求記号 X0-780>

フランス語版 [Marseille] : Opera de Marseille et Actes sud c1994 <請求記号 X0-836>

#### 公演プログラム

新国立劇場:1999年4月21-25日 新国立劇場運営財団 1999 <請求記号 C63-807>

#### カレンダー

Erich W. Engel: Johann Strauss und seine Zeit Wien E.M. Engel, [1911?]) <請求記号 C5-207>

ヨハン・シュトラウス父子や一族の生涯を、写真、絵画、楽譜、等々、366枚の図版で年代順に描く日めくりカレンダー

#### 参考資料

『歌劇』(最新名曲解説全集19)音楽之友社 1980<請求記号 C30-458>

『オペレッタ名作百科』永竹由幸著 音楽之友社 1999<請求記号 X-081/O>

Franz Mailer: Johann Strauss. Wien ; Pichler, c1999 <請求記号 J92-358>

# Ludwig van Beethoven

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン

1770年12月17日ボン生～1827年3月26日ウィーン没

ドイツの作曲家

## 楽曲解説

《交響曲 第7番 作品92 イ長調》Symphonies, no. 7, op. 92, A major

作曲年:1811年～1812年

初演:1813年12月8日、ウィーン大学講堂にて、ベートーヴェン自身の指揮による

初版:ウィーン シュタイナー社 1816年

第5、6番交響曲を特徴付ける「動機労作」による性格的統一に変わり、第7番は、「リズム」を楽章全体に展開することで構築されている。ヴァーグナーが「舞踏の神化」"Apotheose des Tanzes"と評したことはよく知られる。また、この作品は、1813年12月8日、ハーナウ戦役傷病兵のための救援資金調達事前演奏会で初演されたが、その4日後の12月12日、翌年の2月27日にも再演されたうえ、1816年に初版が出版された際には、スコア、パート譜に加えて、6種類もの編曲版の楽譜が同時に出版されるという好評を得た。

同時期に作曲されて対照的な性格を持つ第5番と第6番の交響曲がそう言われるように、リズムと運動性を追及した第7番と軽快で優美な音楽が展開される第8番もまた双生児であるとも言われる。

「ベートーヴェン全集3:人生と芸術 1800-1827」p. 62-69 抜粋 <請求記号 C62-422>

「交響曲」(最新名曲解説全集1)p. 289-293 <請求記号 C39-219>

「ベートーヴェン事典」p. 72-80 <請求記号 C65-428>

## 肖像画

### 1786年 16才の肖像(宮廷楽士姿)

ヨーゼフ・ネーゼン作 シルエット

当時、ベートーヴェンはボン＝ケルン選帝侯の宮廷楽士(第2ヴァイオリン)だった。この絵は、ベートーヴェンの友人であるF.G.ヴェーゲラーと弟子F.リースによる"Biographische Notizen über L.v. Beethoven"(1838)の口絵として掲載された。

Franz Gerhard, Wegeler, Ferdinand Ries: Biographische Notizen über Ludwig van Beethoven. New York G. Olms 1972 <請求記号 C38-611>



### 1812年 42才の肖像

フランツ・クラインによるブロンズの胸像(再铸造) ボン・ベートーヴェン＝ハウス所蔵。ウィーンのシュトライヒャー・ピアノ工房のホールを飾る胸像として作られた。

Richard Petzoldt: Ludwig van Beethoven. Leipzig: Deutscher Verlag für Musik, [1970] <請求記号 C7-873>



## 展示資料

ウィーン ハスリンガー社, [1831]

初版(ウィーン シュタイナー社、1816 年)の第 2 版スコア

< 請求記号 M2-269(S12-107) >

ウィーン シュタイナー社, [1816]

初版スコアと同時に出版された弦楽五重奏用編曲(パート譜)

< 請求記号 M2-269 (S12-113) >

ウィーン シュタイナー社, [1816]

初版スコアと同時に出版された A.ディアベリによるピアノ連弾用編曲

< 請求記号 M2-270 (S12-115) >

自筆譜のファクシミル

《交響曲第 7 番》

第 2 楽章、アレグレットの第 72 小節から第 80 小節まで

< 請求記号 C18-563 >

Robert Bory:Ludwig van Beethoven: his life and work in pictures. London : Thames & Hudson, [1966]

< 請求記号 C3-351 >

## 参考資料

---

「ベートーヴェン全集 3: 人生と芸術 1800-1827」講談社 1997<請求記号 C62-422>

「交響曲」(最新名曲解説全集 1) 音楽之友社 1979<請求記号 C39-219>

「ベートーヴェン事典」東京書籍 1999<請求記号 C65-428>



図書館展示 2005.4.5-

ブラームス・ヴェルディ・シュトラウス・ベートーヴェン

青春に乾杯!

国立音楽大学附属図書館 2005.4.11  
編集 広報委員会(築谷周子・高田涼子)